

農山漁村での長期宿泊体験による教育効果の評価結果について

I 趣旨

文部科学省では、平成20年度から「豊かな体験活動推進事業」において「自然の中での長期宿泊体験事業」を実施し、「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」（以下、「推進校」という。）を指定して、農山漁村での長期宿泊体験・自然体験活動を推進している。この報告書は、平成20年度の同事業に基づく農山漁村での宿泊体験活動による教育効果を評価するため、平成20年度の推進校に指定された学校178校を対象に調査を行い、学識経験者、長期宿泊体験教育の専門家による分析の結果を、農山漁村での宿泊体験活動による教育効果の評価として取りまとめたものである。

II 評価の方法

評価は、平成20年度の推進校178校を対象に、農山漁村での宿泊体験活動実施後の教員の目から見た子どもの変化等を調査票により調査し、その結果について学識経験者、長期宿泊体験教育の専門家による分析を加えることにより行った。

（調査票による調査）

調査は、別添の調査票を、事業年度の翌年である平成21年7月上旬に平成20年度の推進校178校に照会することによって行った。なお、調査票の記入に当たっては、特定の教員個人の印象を記入することのないよう、校長や引率した教諭・養護教諭など、児童の宿泊体験活動に当時関わった関係者の間で検討会を開催して討議するなど、関係者の意見を踏まえて記入するよう依頼している。

調査票は、「人間関係・コミュニケーション能力」、「自主性・自立心」、「マナー・モラル・心の成長」、「子どもたちに与えた客観的影響」の4つの評価項目に関する設問に関し、「非常によく感じる」「よく感じる」「どちらとも言えない」「あまり感じない」「全く感じない」の5つの選択肢のいずれかを選択させる形式とした。

設問は、「平成20年度豊かな体験活動推進事業 自然の中での長期宿泊体験事業（農山漁村におけるふるさと生活体験推進校）ブロック交流会 発表事例集」を参照しつつ、農山漁村での宿泊体験活動による教育効果が想定される項目に関し、児童生徒の変化を問うものとした。

（調査結果の整理分類）

調査結果は、全体（178校）、2泊3日で実施した場合（66校）、3泊4日以上で実施した場合（112校）、4泊5日以上で実施した場合（61校）の区分に整理分類して集計した。

（学識経験者等による分析）

分析は、学識経験者、長期宿泊体験教育の専門家から構成される委員会を設置し、宿

泊日数の区分ごとの回答の分布傾向やその理由と思われる事情を討議することにより行った。なお、分析の過程での委員の意見のうち、宿泊体験活動の今後の実施に当たって配慮すべき事柄や次回調査を行う場合に行うべき設問の見直し等については、関連する項目に参考意見として掲載することとした。

Ⅲ 項目ごとの評価結果

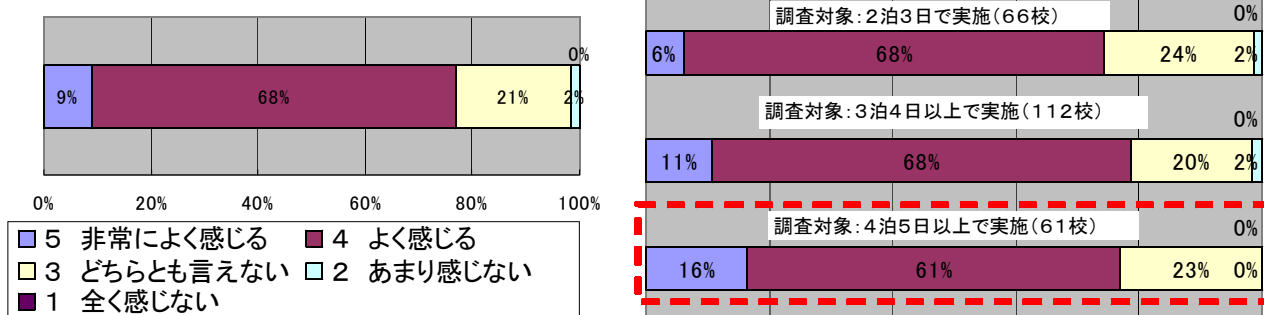
以下は、調査票による調査結果及び学識経験者等による分析結果並びにこれらに関連した参考意見を評価項目ごとに取りまとめたものである。

< 1. 子どもたちの生活態度に与えた影響・効果 >

(1) 人間関係・コミュニケーション能力

① 児童が相手の言うことをよく聞き、相手の立場を考えるようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で77%であった。
- ・ 「非常によく感じる」との回答の割合が2泊3日の区分で6%なのに対し、3泊4日以上区分で11%、中でも4泊5日以上区分では16%と上回っていた。

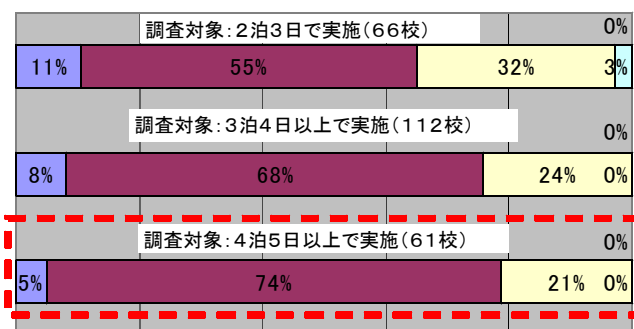
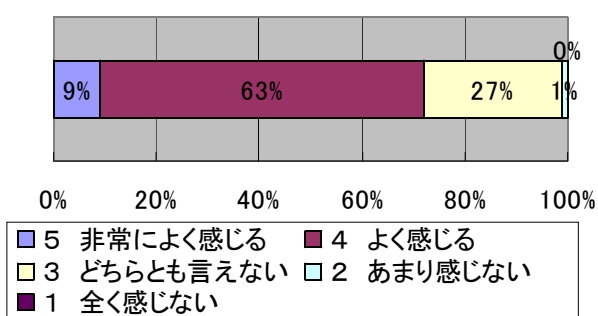
(分析結果)

- ・ 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上区分、3泊4日以上区分より4泊5日以上区分と日数が伸びるに従って高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。
- ・ 人間関係の問題は、特に数字で表せないものであるだけに、教員の主観で回答することになりやすく、教員側が抱いている理想・目標が反映された結果である可能性もある。

(参考意見)

- ・ 宿泊体験活動のプログラムの計画に当たっては、児童に活動計画を任せる部分をつくり、生活上の諸問題を解決したり、人間関係を深めたりするための話合いの時間を持てるような余裕のあるものとして、調べ学習などのスケジュールが詰め込みにならないようにすべきである。

②勉強や運動が不得意な児童を助けるなど、優しさや思いやりの気持ちが深まった。
(調査結果)



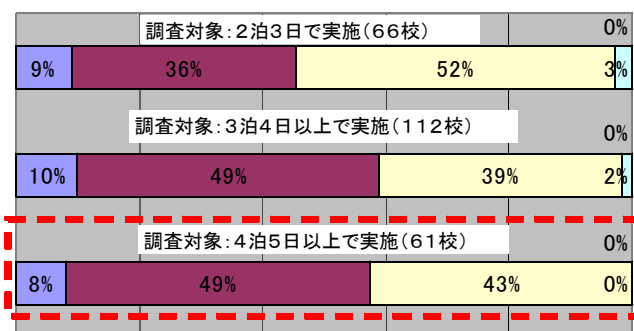
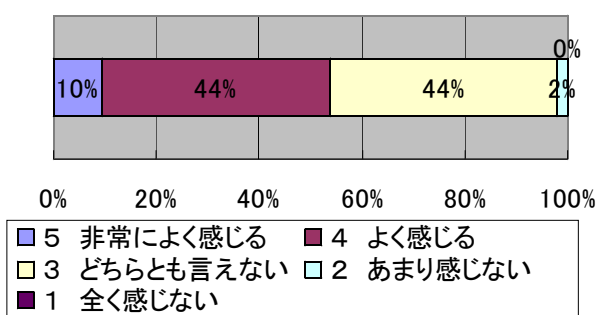
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で72%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で66%なのに対し、3泊4日以上区分で76%、中でも4泊5日以上区分では79%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上区分、3泊4日以上区分より4泊5日以上区分と日数が伸びるに従って高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。

③児童同士のちょっとしたことによる口論、喧嘩が減少した。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で54%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で45%なのに対し、3泊4日以上区分で59%と大きく上回っている。4泊5日以上区分は57%で3泊4日の区分と同程度である。

(分析結果)

- ・ 概ね、効果があると認められる。
- ・ 3泊4日以上区分で高い反応が認められる。なお、4泊5日以上区分は、

3泊4日以上の区分と同様の傾向と見てよい。

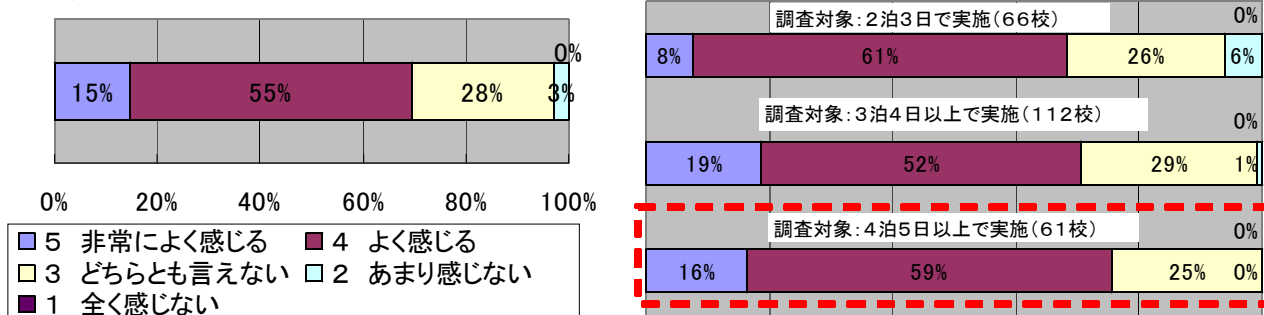
- ・ 宿泊体験活動においては、一般的に3日目くらいまでは互いに自制しているものの、それを過ぎる頃から次第に本音をぶつけ合うようになり、人間関係が質的に変化していく過程で一時的に口論・喧嘩が増えることもある。このような状況にあって、4泊5日以上のある学校では、宿泊体験活動を行う中で活動中の喧嘩が増加したことが影響している可能性がある。本項目は宿泊体験活動後の影響・効果について問うたものであるが、宿泊体験活動中の児童の様子について回答した学校が多数あった可能性もある。

(参考意見)

- ・ この項目についての効果は、宿泊体験活動のプログラムが、児童同士が話し合いの時間を持てるような余裕のあるものになっているかどうか大きく影響される。つまり、日数による差以外に、宿泊体験活動のプログラムの違いも結果に少なからず影響を与えている可能性があることは一考を要する。
- ・ 一時的な感情の衝突が起こるような状況の現出の機会を捉えて児童・生徒に対して相互理解していくための指導を行うことが、宿泊体験活動を実施する意義そのものであるということが出来る。この点については、宿泊体験活動を実施する学校に対して周知を図るべきである。
- ・ 設問項目⑤の「児童が互いに励まし合うなど、連帯感や仲間意識が向上した。」の調査結果を見ると、児童の連帯感や仲間意識が向上したと回答した学校は日数が3泊4日以上になると9割以上を占めている。したがって、設問を宿泊体験活動を行ってその後児童生徒にどのような変化があったかを問う形にしていれば、宿泊体験活動中に少々の喧嘩が起こったとしても中長期的には相互理解が進むことによって口論・喧嘩が減少したことを捉えて回答した学校が多くあった可能性もある。次回は設問を「宿泊体験活動を行って、その後の学校生活において、児童同士のちょっとしたことによる口論、喧嘩が減少するなどより良い関係が育まれた。」というように見直すことを検討すべきである。

④今まで交友関係がなかった児童同士に新しい交友関係が芽生えた。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で70%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分

で69%なのに対し、3泊4日以上の区分で71%、中でも4泊5日以上の区分では75%と上回っている。

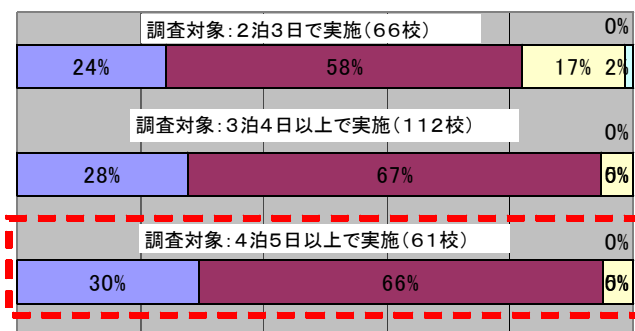
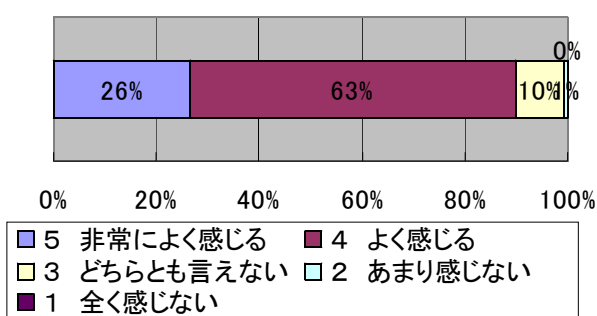
- 「非常によく感じる」との回答の割合が2泊3日の区分で8%なのに対し、3泊4日以上の区分で19%と上回っているが、4泊5日以上の区分では16%と若干減少している。

(分析結果)

- 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上の区分、3泊4日以上の区分より4泊5日以上の区分と日数が伸びるに従って高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。
- 調査結果で「非常によく感じる」と「よく感じる」の回答区分における差について、泊数が伸びたときにこの2つの総数が増えているのであれば、「非常によく感じる」の数が若干減少していたとしても、その事実を過大視する必要はない。

⑤児童が互いに励まし合うなど、連帯感や仲間意識が向上した。

(調査結果)



- 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で89%である。
- 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で82%なのに対し、3泊4日以上の区分で95%、4泊5日以上の区分では96%と上回っている。
- 「非常によく感じる」との回答の割合が2泊3日の区分で24%なのに対し、3泊4日以上の区分で28%、4泊5日以上の区分では30%と上回っている。

(分析結果)

- 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上の区分の方が高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。4泊5日以上の区分は3泊4日以上の区分と同程度の高い反応を示している。

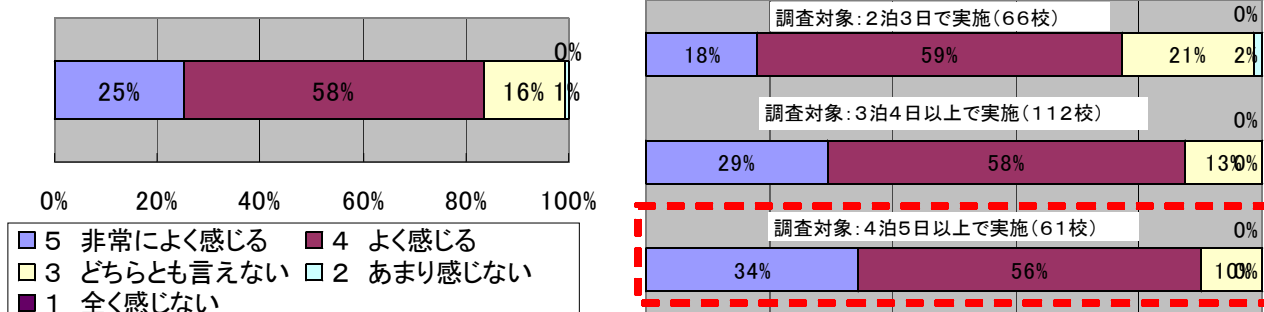
(参考意見)

- 学校側が日ごろの教育活動で目指している児童の連帯感や仲間意識の向上が、数日間の宿泊体験活動のような「集団指導」の機会に効果を挙げることができたという認識を学校側が持っているということは、注目すべき事実であると考えら

れる。

⑥共通の目標に向かって児童が協力し合うようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で83%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で77%なのに対し、3泊4日以上の区分で87%、中でも4泊5日以上の区分では90%と上回っている。
- ・ 「非常によく感じる」との回答の割合は2泊3日の区分で18%なのに対し、3泊4日以上の区分で29%、中でも4泊5日以上の区分では34%と上回っている。

(分析結果)

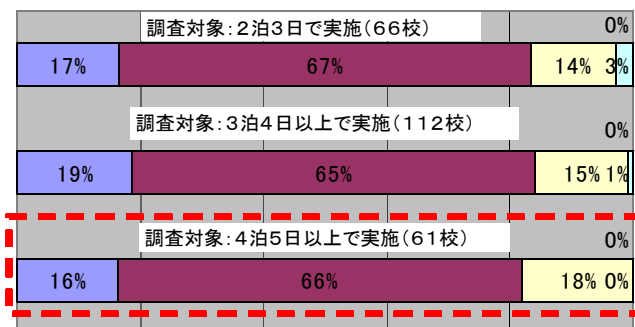
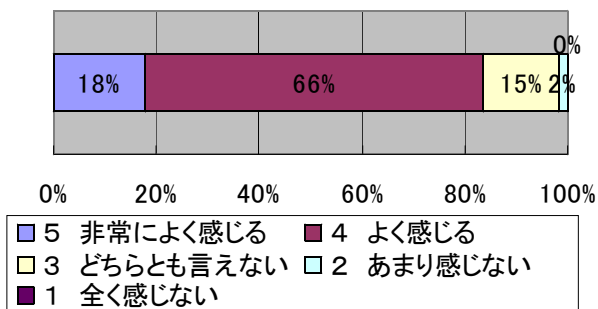
- ・ 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上の区分、3泊4日の区分より4泊5日以上の区分と日数が伸びるに従って高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。

(参考意見)

- ・ 同じ目標に向かって、多少気の合わない人間とも力を合わせてやり遂げる経験をさせるのは社会性を育む教育の重要部分であるため、考え方や価値観などが異なる多様な児童が協力し合わなければできない課題性を持たせたプログラムにすることは重要である。
- ・ 児童は普段、比較評価を受けることばかりで、互いに競争意識を持たされ、ストレスを抱えている面があるが、そこを離れて児童が共通の目標を持てる機会は年数回しかない。こうした活動を積極的に実施して、「集団ならではの充実感」を感得させることが重要である。
- ・ 宿泊体験活動で学んだことを活かして学校行事や学級活動などを実施するなど、宿泊体験活動で得られた成果をその後の日常の学校生活に活かしていくストーリー性のある活動とする工夫が必要なのであり、そのような点を捉えて「宿泊体験活動はあくまできっかけに過ぎない」という標語になっていることを銘記すべきである。

⑦多様な人々との接し方を学び、対応ができるようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で84%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で84%、3泊4日以上の区分で84%、4泊5日以上の区分では82%となっている。

(分析結果)

- ・ 一様に高い反応を示しており、日数に関わらず高い効果が認められる。

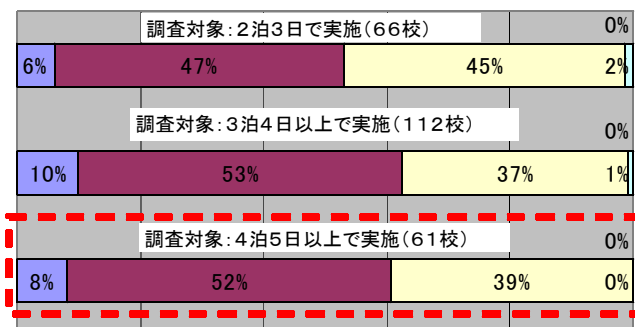
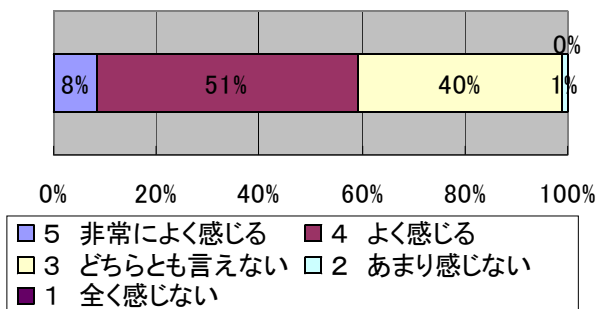
(参考意見)

- ・ どの程度の効果が認められるかは、宿泊体験活動のプログラムが、児童が多様な他者と接触する機会があるものになっているかどうかの影響している可能性がある。

(2) 自主性・自立心

①児童が進んで清掃や係の仕事などをするようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で59%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で53%なのに対し、3泊4日以上の区分で63%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 概ね効果があると認められる。
- ・ 3泊4日以上の区分で高い反応が認められる。なお、4泊5日以上の区分は、

3泊4日以上の区分と同様の傾向と見てよい。

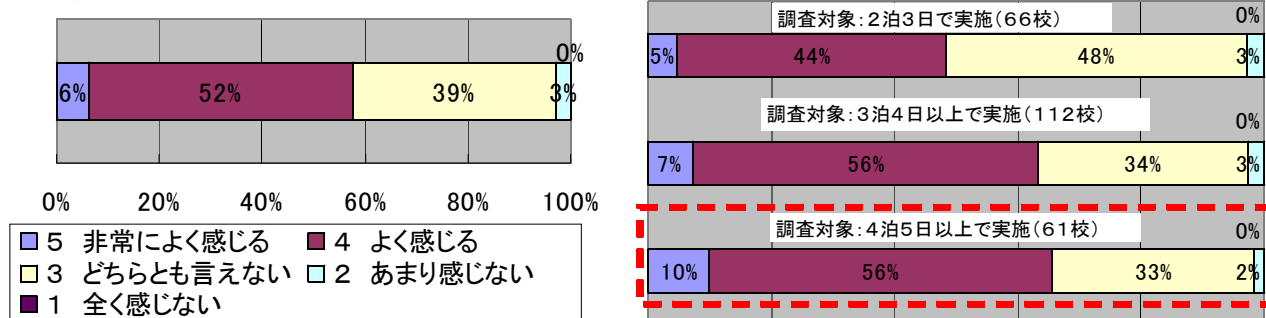
- ・ 4泊5日以上の区分が3泊4日以上の区分と同様の傾向となっている理由としては、宿泊体験活動の期間中にいわゆる「慣れ」の現象が出てきて、次第に清掃や係の仕事についての意識が減退していった事態が想定され、かつ、そのことが結果に影響した可能性がある。

(参考意見)

- ・ 数日の宿泊体験活動で、係の仕事をきちんとすること等が簡単に習慣化できるというのではなく、宿泊体験活動を一つのきっかけと考えてその後の学校生活における清掃や係の活動などの指導に繋げていくことを念頭に置くべきである。
- ・ 本項目は宿泊体験活動後の影響・効果について問うたものであるが、宿泊体験活動中の児童の様子について回答した学校が多数あった可能性があり、宿泊体験活動を実施したことがどういう意味を持つかということ意識させる質問の立て方を検討すべきである。

②身の回りの整理整頓など、自分のことは自分でする姿勢が身についた。

(調査結果)



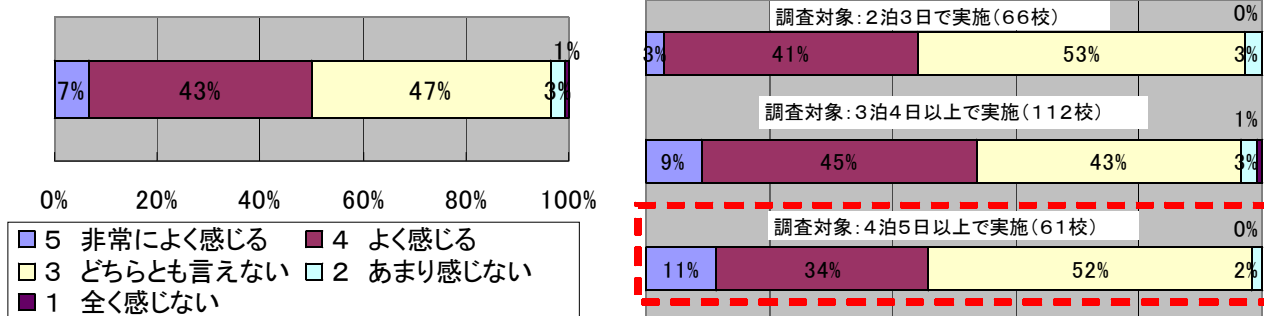
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で58%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で49%なのに対し、3泊4日以上の区分で63%、中でも4泊5日以上の区分では66%と上回っている。
- ・ 「非常によく感じる」との回答の割合は2泊3日の区分で5%なのに対し、3泊4日以上の区分で7%、中でも4泊5日以上の区分では10%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 概ね効果があると認められる。
- ・ 3泊4日以上の区分で高い反応が認められる。なお、4泊5日以上の区分は、3泊4日以上の区分と同様の傾向と見てよい。

③すぐに教員に頼らず、発生した問題を自分達で話し合うなどして解決しようとするようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で50%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で44%なのに対し、3泊4日以上区分で54%と上回っているが、4泊5日以上区分では45%となっている。
- ・ 「非常によく感じる」との回答の割合は2泊3日の区分で3%なのに対し、3泊4日以上区分で9%、中でも4泊5日以上区分では11%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 概ね効果があると認められる。
- ・ 3泊4日以上区分で高い反応が認められるが、4泊5日以上区分は、3泊4日以上区分よりも低い反応となっている。
- ・ 平素の学校生活において、児童に対し、常に教員が指示して事前にトラブルを回避させているような場合、4泊5日以上区分では、宿泊体験活動を行う中で児童が悪化した状況を自分たちだけで修復できなくなり、指導者に対する依存心が強まった事態が想定され、かつ、そのことが結果に影響した可能性がある反面、宿泊体験活動中に一時的に指導者への依存心が強まったとしても、中長期的には自立心が育まれることで、実態として問題を自分達で解決しようとするようになったと認識して「非常によく感じる」と回答した学校があった可能性もある。
- ・ 本項目は宿泊体験活動後の影響・効果について問うたものであるが、宿泊体験活動中の児童の様子について回答した学校が多数あったものと推測される。

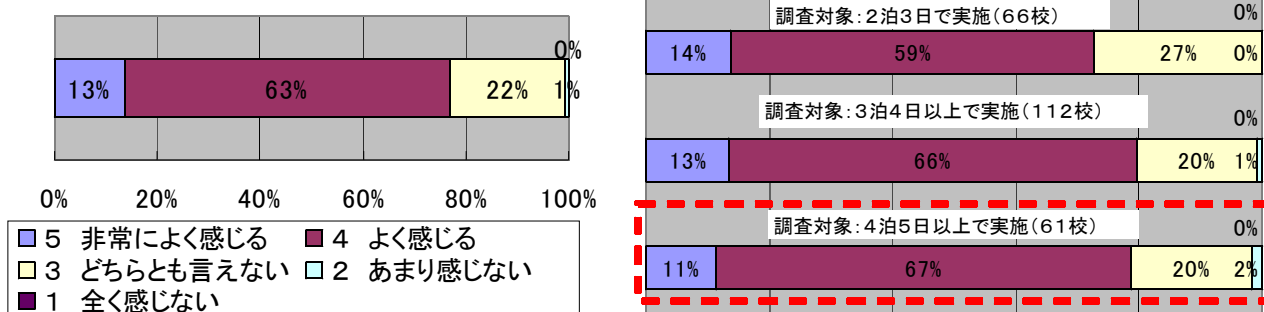
(参考意見)

- ・ 平素から、学級づくりの問題として、教員側のコントロールを効かせて自主性・自立性を奪うのではなく、子どもたち自身でやらせてみて、たとえ失敗しても自分でやったことについて教員が認めていくような「支持的な風土」をつくっておくことが大事である。トラブルが起こったときにもこれを指導の好機と捉え、まず児童が自分で考え、解決できるような自発的・自治的な活動の指導を重視することも大切である。
- ・ 次回は設問を「宿泊体験活動を行って、その後、すぐに教員に頼らず、発生した問題を自分達で話し合うなどして解決しようとするようになった。」と見直すこ

とを検討すべきである。

④班、学級、委員会等の集団で活動する際、リーダーシップを取る児童が増えた。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で76%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で73%なのに対し、3泊4日以上区分で79%と上回っている。

(分析結果)

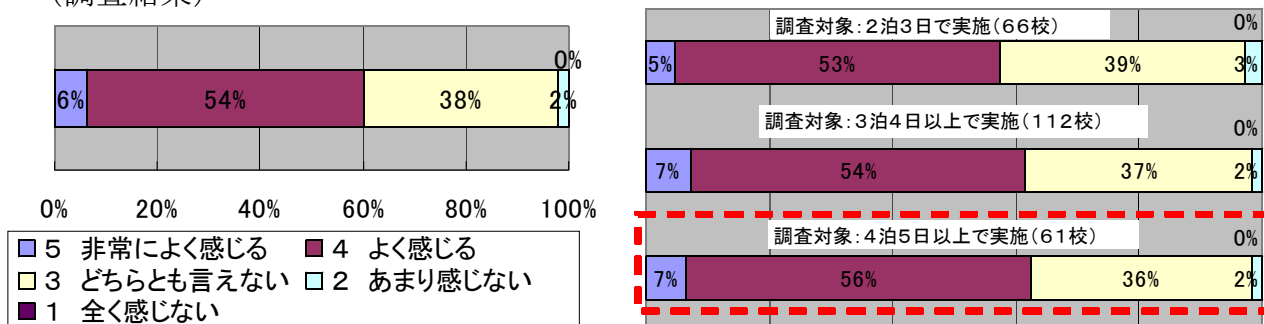
- ・ 概ね高い反応を示しており、効果があったと認められる。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上区分の方が高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。4泊5日以上区分は3泊4日以上区分と同程度の高い反応を示している。

(参考意見)

- ・ 宿泊体験活動は、思わぬ児童が思わぬリーダーシップを発揮することがある貴重な機会であり、特定の児童だけでなく、いろいろな児童にリーダー経験をさせるべきである。

⑤失敗を恐れず物事に挑戦する児童が増えるなど、チャレンジ精神が旺盛になった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で60%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で58%、3泊4日以上区分で61%、4泊5日以上区分では63%となっ

ている。

(分析結果)

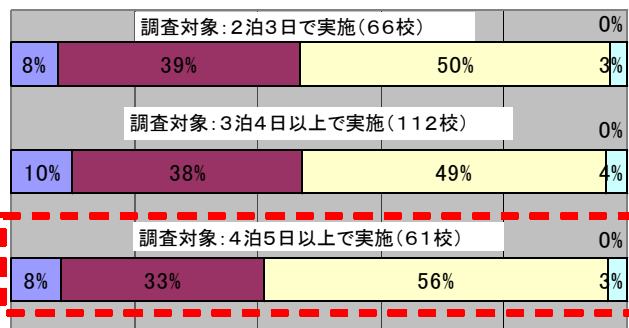
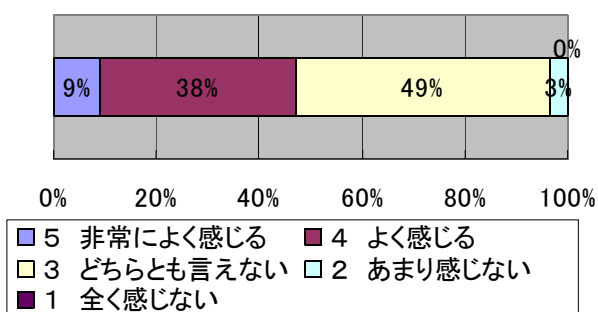
- ・ 日数に関わらず、宿泊体験活動の実施による一定の効果が見られたものと評価してよい。どの程度の効果が認められるかは、プログラムの中で児童に挑戦させる課題を与えているかどうかによって大きく影響された可能性がある。

(参考意見)

- ・ 宿泊体験活動では、学校の中よりもチャレンジの機会はずっと多いはずである。チャレンジをどのような意味で捉えるかで結果は変わってくるものと考えられるが、質問の内容が漠然としており、回答に困った学校も多かったと考えられる。設問の内容を具体的なものに見直すべきである。

⑥クラブ活動など任意の活動に積極的に参加しようとする児童が増えた。

(調査結果)



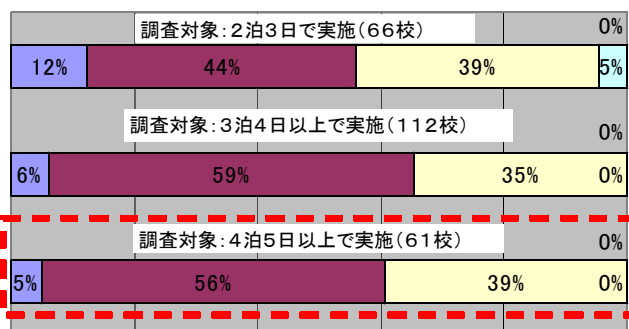
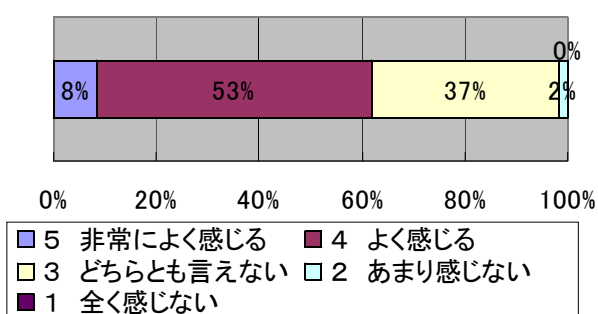
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で47%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で47%、3泊4日以上の区分で48%、4泊5日以上の区分では41%となっている。

(分析結果)

- ・ 任意の活動への参加意欲は、宿泊体験活動の実施によって高まるものと推測されたが、予想外に低い反応であった。その原因としては、任意の活動の例示としてクラブ活動を掲げたことが結果に大きく影響した可能性が考えられる。

⑦約束、ルール、時間を守るようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で61%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で56%なのに対し、3泊4日以上の区分で65%と上回っているが、4泊5日以上の区分では61%となっている。

(分析結果)

- ・ 概ね効果があると認められる。
- ・ 3泊4日以上の区分で高い反応が認められる。なお、4泊5日以上の区分は、3泊4日以上の区分と同様の傾向と見てよい。
- ・ 宿泊体験活動の日数が長くなり、いわゆる「慣れ」の状況になると、宿泊体験活動のプログラムが、児童同士が話合いの時間を持てるような余裕のあるものになっていない場合、生活全体の規律が低下する事態が想定され、かつそれにより時間に遅れるようになったことなどを捉えて回答した可能性がある。

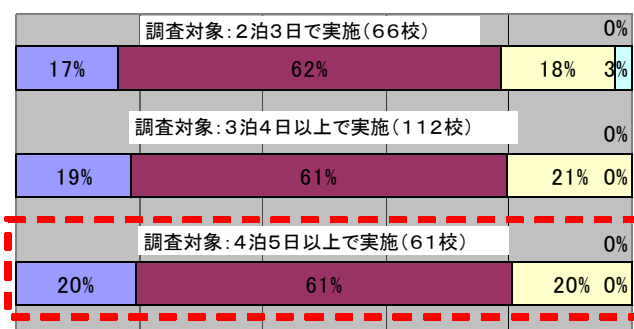
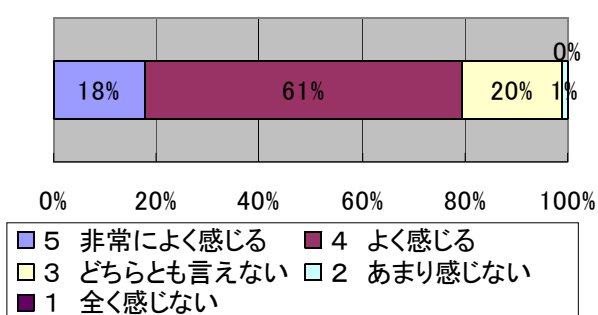
(参考意見)

- ・ 自主的に民主的に自分たちの問題を解決していく力は重要であり、宿泊体験活動でも自分たちでルールを考えさせる場合に子どもたちはより遵守すると考えられる。
- ・ 規範意識の確立や法やきまりの意義を理解させる観点から、新学習指導要領では「第6章特別活動」において「自分たちできまりをつくって守る活動」を充実することを記載しており、設問は「自分たちの決めた約束、ルールを守るようになった。」と改めた方がよい。

(3) マナー・モラル・心の成長

①きちんとあいさつができる児童が増加した。

(調査結果)



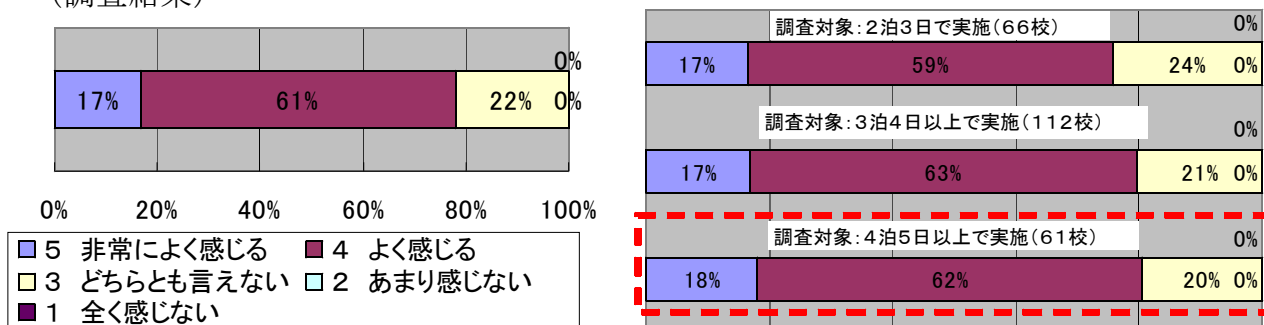
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で79%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で79%、3泊4日以上の区分で80%、4泊5日以上の区分では81%となっている。

(分析結果)

- ・ 一様に高い反応を示しており、日数に関わらず高い効果が認められる。
- ・ あいさつ、感謝、謝罪等の言葉の大切さについては、日頃、学校で繰り返し指導され、宿泊体験活動においても事前に指導されるものであるが、見知らぬ土地、人々からなる「世の中」に直接に接することで、初めてそのことの意義や大事さを実感し、児童に体得され、身に付いた可能性がある。
- ・ 本項目については宿泊体験活動による効果そのものよりも、むしろ、学校側が宿泊体験活動の実施に先立ちあいさつ指導を入念に行っているという学校側の取組意識が反映された可能性もある。

②「ありがとうございます」など、感謝の言葉が自然に出るようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で78%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で76%、3泊4日以上区分で80%、4泊5日以上区分では80%となっている。

(分析結果)

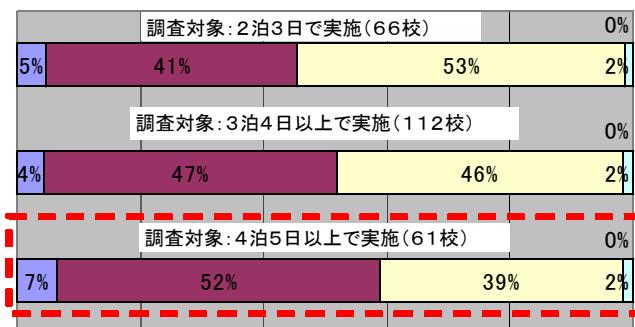
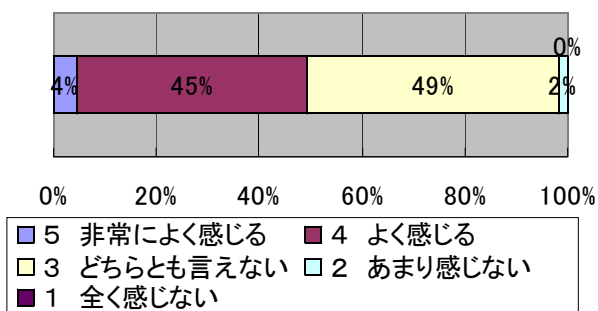
- ・ 一様に高い反応を示しており、日数に関わらず高い効果が認められる。
- ・ あいさつ、感謝、謝罪等の言葉の大切さについては、日頃、学校で繰り返し指導され、宿泊体験活動においても事前に指導されるものであるが、見知らぬ土地、人々からなる「世の中」に直接に接することで、初めてそのことの意義や大事さを実感し、児童に体得され、身に付いた可能性がある。
- ・ 本項目については宿泊体験活動による効果そのものよりも、むしろ、学校側が宿泊体験活動の実施に先立ちあいさつ指導を入念に行っているという学校側の取組意識が反映された可能性もある。

(参考意見)

- ・ この設問と前記①の設問は同じ事柄を扱っているように見える。この設問では、むしろ民泊時の触れ合い体験で、自然と感謝の言葉が出るようになった状況があったかどうかを確認する設問とするほうがよい。

③我慢できるようになったり、苦勞を厭わなくなった。

(調査結果)



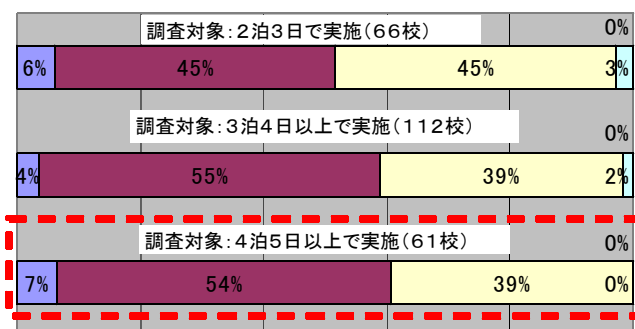
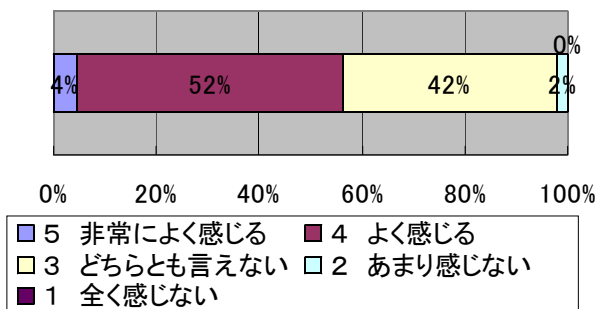
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で49%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で46%なのに対し、3泊4日以上の区分で51%、中でも4泊5日以上の区分では59%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 全体的に高い反応と言うことはできないが、通常の学校生活において我慢を強いられるということがほとんどないということを勘案すると、半数ほどで効果があったという回答は注目すべきである。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上の区分、3泊4日以上の区分より4泊5日以上の区分と日数が伸びるに従って高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。

④相手の立場を考えた言葉遣いができるようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で56%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で51%なのに対し、3泊4日以上の区分で59%、中でも4泊5日以上の区分では61%と上回っている。

(分析結果)

- ・ ①、②の設問と内容的に重複が認められ、回答者が混乱した可能性がある。

(参考意見)

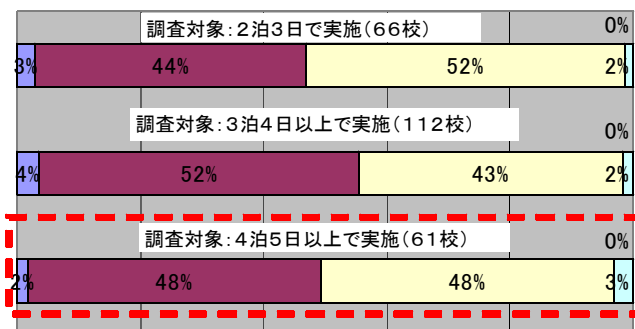
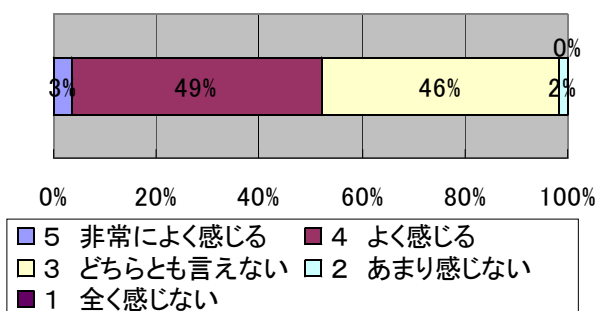
- ・ 次回は設問を省略してもよいと思われる。

< 3. 子どもたちに与えた客観的影響 >

(1) 児童の学習意欲等

- ・ 学習に対する「関心」「意欲」「態度」が向上する児童が増えた。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で52%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で47%なのに対し、3泊4日以上区分で56%と上回っているが、4泊5日以上区分では50%となっている。

(分析結果)

- ・ 調査結果は、必ずしも高い反応とはいえない。その原因としては、学習全般に対する「関心」「意欲」「態度」を一括りにして設問を立てたために、反応が鈍くなった可能性がある。
- ・ 自然への関心に絞った設問か、児童の学習環境を整えるという視野を含んだ設問としていけば、もっと高い反応が得られた可能性もある。

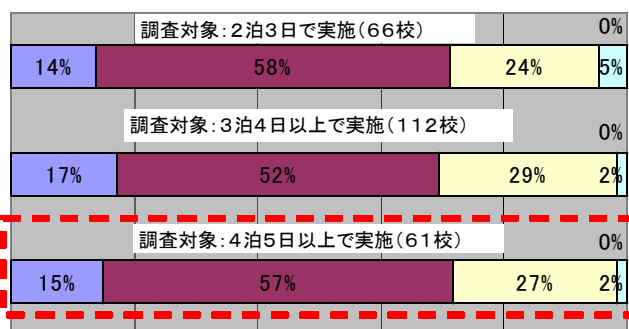
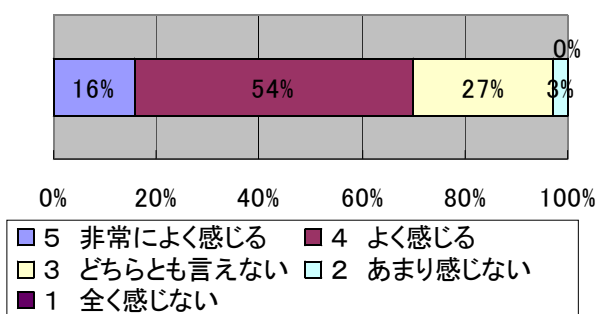
(参考意見)

- ・ 宿泊体験活動は自然の中で様々なことを体感することを目的としているものであり、「関心」「意欲」「態度」についても設問の立て方の工夫によっては更に高い数値が得られた可能性があり、設問の内容を見直す必要がある。
- ・ 自然の中での宿泊体験活動の実施に当たっては、学校側が自然体験活動と教科学習との関連性を強く意識し、児童に自然体験をさせる過程で知的好奇心を呼び覚まし、教科学習への関心や意欲を刺激するようなプログラムを計画・実行することが重要である。

(2) 食育の広がり

- ・ 児童が農業体験等を行ったことで、「食」の大切さが理解された。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で70%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で72%、3泊4日以上区分で69%、4泊5日以上区分では72%となっている。

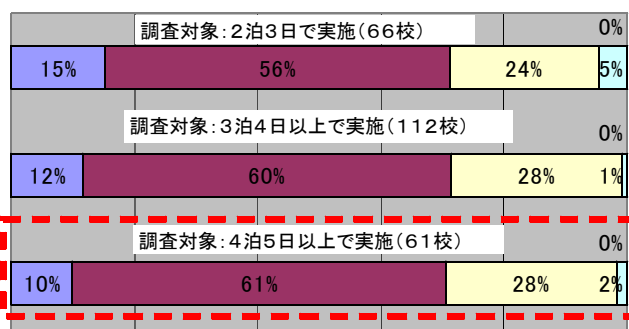
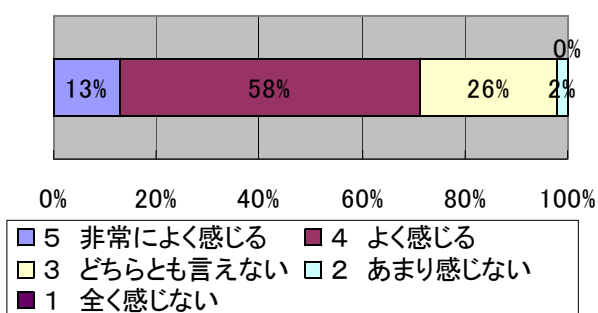
(分析結果)

- ・ 一様に高い反応を示しており、日数に関わらず高い効果が認められる。
- ・ 農業体験を行うと食育の意識向上に繋がることが多く、このような結果になるかどうかはプログラムの内容にも影響される可能性がある。

(3) 環境教育の広がり

- ① 児童が自然体験を行ったことで、自然環境保全の意識が向上した。

(調査結果)



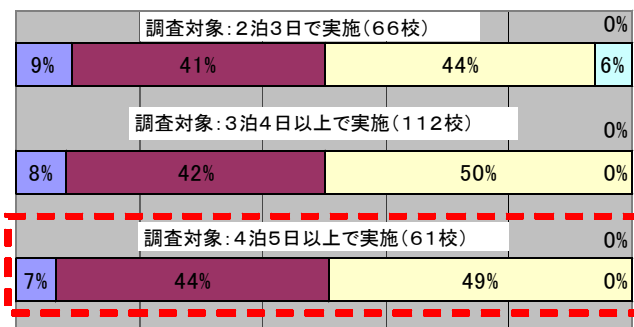
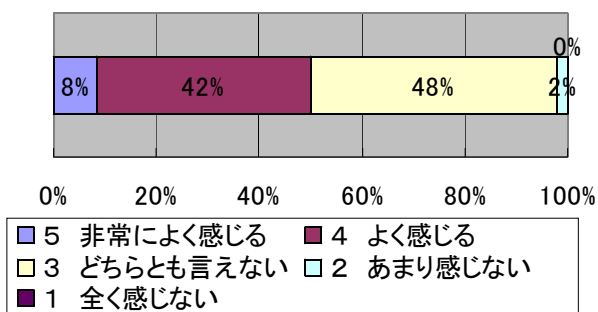
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で71%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で71%、3泊4日以上区分で72%、4泊5日以上区分では71%となっている。

(分析結果)

- ・ 一様に高い反応を示しており、日数に関わらず高い効果が認められる。

②学校で動物の飼育や植物の栽培に熱心に取り組むなど、命の大切さや生き物に関心を持つ児童が増えた。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で50%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で50%、3泊4日以上区分で50%、4泊5日以上区分では51%となっている。

(分析結果)

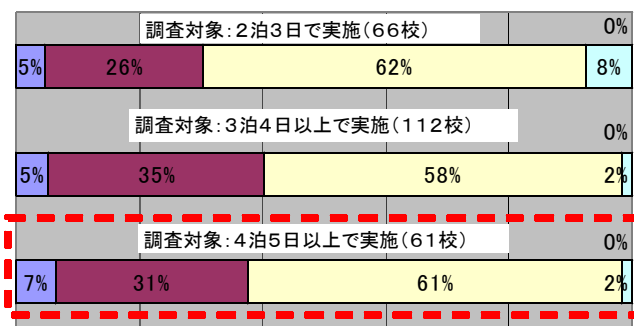
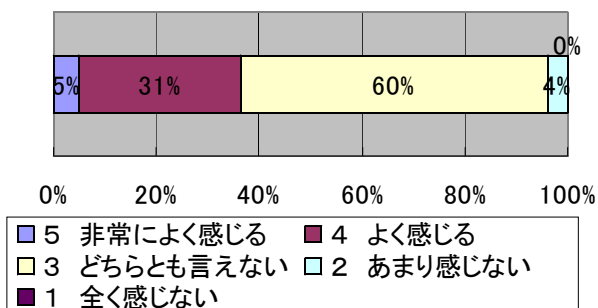
- ・ 児童が普段から自然に触れる機会が減少していることを示す調査結果が出ている中、予想外に低い結果である。

(参考意見)

- ・ 本調査の「3. 子どもたちに与えた客観的影響」の設問に設けた自由記述欄の記述には、「普段から自然や虫などには接しているため、判断が難しい。」などといったものも見られ、元来、自然の豊かな地域では、普段から自然や生き物に接しているため、元々命の大切さや生き物への関心が高い児童生徒が多く、宿泊体験活動による効果が目立たないという条件の学校もあった。調査に当たっては、そのような背景事情も併せて問う欄を設けた方がよい。

③虫などを怖がらなくなり、自然に親しみを感じるようになった。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で36%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分

で31%、3泊4日以上の区分で40%、4泊5日以上の区分では38%となっている。

(分析結果)

- ・ 本項目は宿泊体験活動後に児童が「自然に親しみを感じるようになった」かどうかを特に聞いたものであるが、設問中の「虫などを怖がらなくなり」との例示に影響を受け、「児童が虫を怖がっているかどうか」という事実について回答する例が多かった可能性がある。この場合、全項目と同様、元来、児童が自然の豊かな地域で普段から自然や生き物に接していれば、宿泊体験活動による効果が目立たなかった可能性がある。

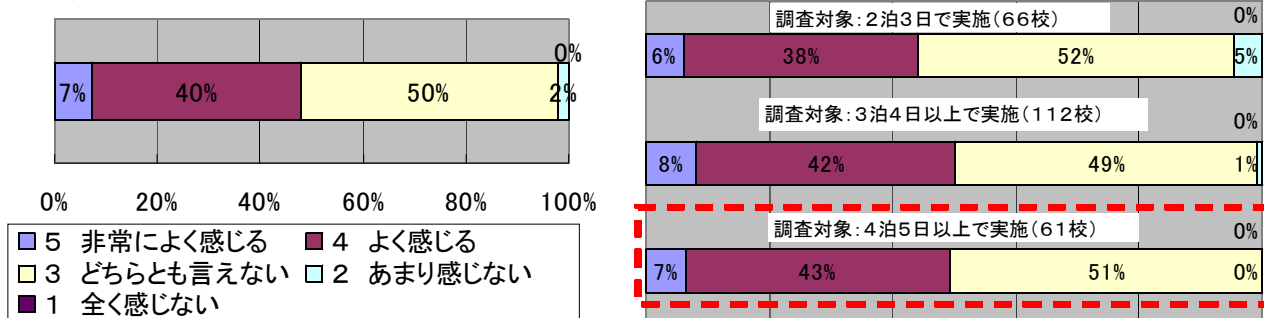
(参考意見)

- ・ 自然への親しみが宿泊体験活動の前後でどう変わったかを問うていることが明確に分かるような設問に改めた方がよい。

(4) 児童の心の問題の改善

- ・ いじめ問題や不登校問題の改善に効果が見られた。

(調査結果)



- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は全体で47%である。
- ・ 「非常によく感じる」、「よく感じる」との回答の割合の合計は2泊3日の区分で44%なのに対し、3泊4日以上の区分で50%と上回っている。

(分析結果)

- ・ 絶対値として必ずしも高い反応とはいえないものの、宿泊体験活動といじめ、不登校等の問題行動との結び付きが一般に意識されていない中、効果を感じているという回答が半数近くあるという事実は注目すべきであり、そういう意味でかなり効果があったものと認めてよい。
- ・ 日数の違いによる変化の傾向は、2泊3日の区分より3泊4日以上の区分の方が高い反応を示しており、日数と効果の相関が認められる。
- ・ 元々、自校内でのいじめや不登校を認知していない学校も多く、また、どこまでが宿泊体験活動の効果なのか検証できなかったも学校も多くあった可能性もある。

(参考意見)

- ・ 一般的に、人間関係などに課題を抱えている児童や不登校児童であっても宿泊

体験活動には参加する傾向があるので、より良い人間関係づくりや不登校児童生徒の学校復帰に向けたきっかけづくりとしての貴重な機会として取り組むという視点が重要である。

IV 総括

(1) 評価方法について

農山漁村での宿泊体験活動の効果を評価するに当たっては、児童自身の意識の変化を直接アンケート調査するという方法もある。しかし、これは調査対象となる児童数が多数となり、調査票の送付、回収、集計等の負担が極めて大きい。また、児童本人が知らず知らずのうちに変化しているような場合においては、学校の教師側から客観的に見た児童の変化の方が、より適切に児童への宿泊体験活動の効果を捉えることができるものと考えられる。

したがって、今回このような方法は採らず、むしろ、学校側からの意識調査によって全国的な傾向を把握することとしたが、設問上の問題から無効な結果や効果が認められなかった項目が一部あったものの、分析を通じてほとんどの項目において合理的な解釈を行うことができた。

こうしたことから、今回の評価は、評価手法として相応の合理性が認められ、設問等の改善を加えながら、今回と同様の手法で今後も評価を継続していくことが適切と考えられる。

(2) 評価結果の内容について

「人間関係・コミュニケーション能力」、「自主性・自立心」、「マナー・モラル・心の成長」、「子どもたちに与えた客観的影響」の各評価項目の多くの設問において効果を認めることができ、宿泊体験活動との関連が一般にあまり意識されていないいじめ、不登校等の問題行動にも効果があったと認められるなど、宿泊体験が全体として多様な効果を期待できる取組であることが明らかとなった。

また、日数に関わらず、効果が大いに期待できる項目もあったが、2泊3日の区分と比較すると3泊4日の区分の方がより高い反応を示す項目が目立った。これに対して3泊4日の区分と4泊5日の区分の比較では傾向において変化が見られない事項が多く見られた。

これは、宿泊体験活動においては、教員の指導を受けながら生活の仕方を学んだりすることに2日ぐらいが必要であり、3泊目以降になると自分たちの力で生活せざるを得ない場面が出てくることが想定され、効果に大きな違いが出てきた可能性がある。

こうしたことから、今回行った評価の結果からは、一般的に宿泊体験活動においては3泊4日以上での長期の体験日数を確保することが望ましく、これを長期宿泊体験の当面のモデル的な期間とすべきであろうとの感触が得られた。

V 今後の課題

(1) 設問の見直し

今回の調査票の設問内容は事務局において過去の事例集を参考に作成したが、評価委員会における委員討議の結果、設問上の問題から調査が無効となっている指摘もあった。また、分析を進めていく過程で様々な要因が絡み合った結果、調査結果と要因の分析が困難である評価項目が存在することも分かった。

したがって、設問の見直しに当たっては、それがいつの時点の評価を問うたものであるのかを明確にするなどより正確な質問とすることや、例えば、もともと豊かな自然環境の中に学校が所在する場合でも、自然に親しみを感じるようになったかどうか質問しているような例があったことから、分析に必要となる詳細な背景情報を調査項目として追加することも検討する必要がある。

(2) 本報告書の周知

評価項目の中には宿泊体験活動によって即座に効果が現れたものもあれば、一概に効果があるとは認められなかったものもある。しかし、例えば効果が認められなかった項目の中にも、体験学習を一つのきっかけとして、事前・事後指導を適切に行い、他の学校行事とも組み合わせる一つのストーリー性のある取組とすることで、初めて効果が得られる可能性がある項目もある。

このような項目については、今後、学校教育活動全般を通じて児童生徒への適切な指導を進めていく必要がある。そういう意味では、この報告書は宿泊体験活動に関する教員のみならず、すべての教員に目を通してもらいたい感があり、周知を図るべきである。

(3) 留意事項の周知

評価委員会において調査結果を分析する際、専門家からは、例えば児童に話合いの時間を持たせるような余裕のあるプログラムにしたり、仮にトラブルが起こっても極力自分たちの力で解決させるべきであることなど、プログラムの計画・実施に当たって大いに参考になる留意事項が述べられた。

これらの今回の評価で得られた知見については、学校、教育委員会に積極的に周知することで、今後学校現場における宿泊体験活動のプログラムの計画・実施にフィードバックし、また、豊かな体験活動推進事業等の委託事業の審査・選定等を行う審査委員会において自然の中での長期宿泊体験事業の審査を行う際の参考基準とし、委託契約を行うに当たってそれを盛り込んでいくなど、より効果的な宿泊体験活動の実施を図る必要がある。